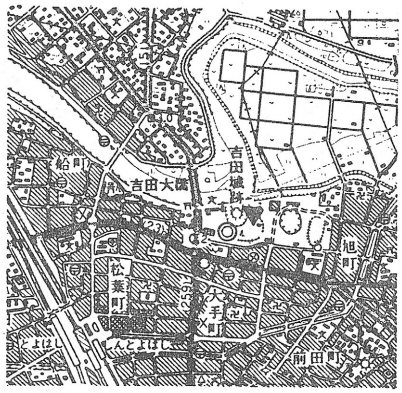
愛知・吉田城三ノ丸跡

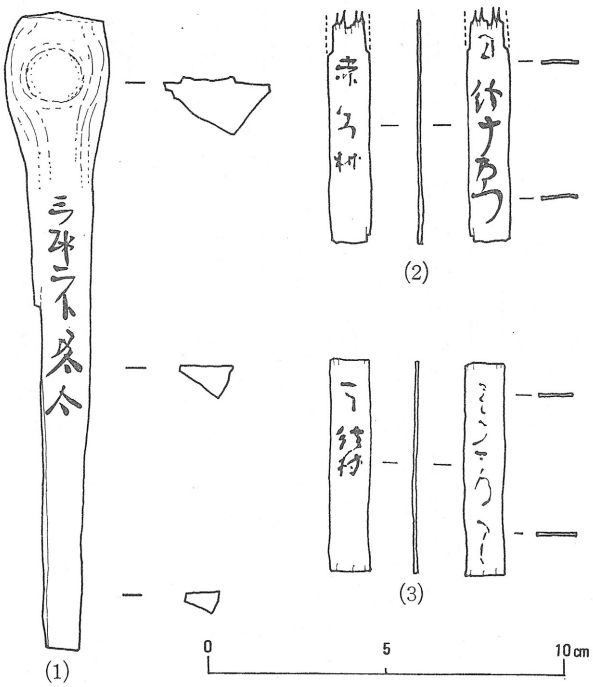
1 所在地　愛知県豊橋市今橋町
2 調査期間　一九八四年（昭59）一二月
3 発掘機関　豊橋市教育委員会
4 調査担当者　小畑頼孝
5 遺跡の種類　城跡及び集落跡
6 遺跡の年代　八世紀～一八世紀
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

吉田城三ノ丸跡は、東三河地方の平野部を流れる豊川が、支流の朝倉川と交わる左岸台地上に位置する標高約一〇mの地区にある。



この地域は豊橋公園内にあたり、眼下に豊川が形成した沖積平野を望むことができる。当三ノ丸跡の調査は、一九八五年度を予定として敷地内に仮称「三ノ丸会館」の建設が決められたため事前に調査を実施したものである。本三ノ丸跡内では市立美術博物館などの建設にともない実施された調査で、弥生時代から江戸時代にかけての遺構が検出されており、本丸跡も含めた遺跡の総面積は三三〇、〇〇〇㎡である。

三ノ丸跡に接して同台地上、東約一〇〇mには弥生時代の飽海遺跡が存在し、それより五〇〇mには古墳時代中期の東田古墳が築造されている。また、西方約一kmには縄文時代前期の石塚貝塚が存在する。



（豊　橋）

発掘調査の結果、奈良・平安時代の土壙、中世の溝及び柱穴、江戸時代の溝・土壙・柱穴・蔵の礎石などを検出した。木簡は江戸時代後期の土壙から、木製品と共に計八点出土している。また、奈良時代の土壙から「大一」と判読できる墨書土器が出土している。

8　木簡の釈文・内容

出土総数八点の木簡の内、判読できるものは三点であった。

(1)　「三斗二升五合合」　180×30×17

(2)　・□島十郎左衛門」
　　・赤□村　　」　(67)×12×2

(3)　・「□□」
　　・「□島村　」　61×12×2

木簡は、現存する吉田城の絵図面にのる安政四年（一八五七）まで米蔵が存在した地点から出土したものであり、米蔵移転に伴いその後造られた土壙に荷札が投棄されたものと考えられる。

（小畑頼孝）